

丹波市人権・同和教育協議会

人権ネットワーク たんば

第45号

発行 丹波市人権・同和教育協議会

〒669-3309

事務局 丹波市柏原町柏原443

TEL・FAX 0795-72-2770

e-mail jinken@tambashi-doukyou.jp

※事務局は旧休日診療所に移転しました

中学生の主張 人権作文最優秀作品

丹波市人権・同和教育協議会（市同教）では、市内の中学生から人権作文を募集し、最優秀作品は市同教広報紙「人権ネットワークたんば」に掲載する取組を行っています。本年度も、市内全中学校から21点の作品応募がありました。戦争と平和、障がい者の人権、性的少数者の人権、いじめ、ハンセン病、多文化共生、ボランティア、

高齢化社会、自分の生き方等々、多様な人権問題についての内容で、中学生の人権意識の深まりと人権教育の広がりを感じました。選考の結果、市島中学校1年長井健瑠さんの作品が最優秀賞に選ばされました。長井さんの主張が1人でも多くの市民の皆様の心に届くことを願って作品を紹介させていただきます。

ある日、僕は何気なくつけたテレビに目が釘付けになった。テレビに映っていたのは、東京オリンピック・パラリンピックのCMだった。僕は、その中の車いすテニス選手に衝撃を受けた。この人はどうして、こんなに速く車いすを操作できるのだろう。僕は、小学校の時の車いす体験を通して、その操作の難しさを知っている。また、スポーツに対する真剣さ、いきいきとした姿勢に、「パラリンピックとはどんな大会なんだろう。」と興味がわいた。そして、「障害とは何なのか。」考えてみたくなった。「障害」を考え始めた時に、小学校の障害についての学習を思い出した。

学習の中で、一番印象に残っているのは、来校してくださった片山の不自由な方の「障害」の「害」の字を平仮名表記にしてもらいたいという意見だった。「害」という字は、障害物リレーに想起されるように、「よけなければならないもの」や「悪いもの」というマイナスのイメージがあり、「しょうがない」がある自分自身が否定されているように感じるそうだ。実際、電車やバスの表記は、「障

個性の祭典 パラリンピック 市島中学校1年 長井 健瑠さん

がい」となっている。僕は、この表記をすることで、障がい者の人々の思いを大切にしているように思う。

来年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催される。パラリンピックは、障がいがあるトップアスリートが出席する大会だ。しかし、僕はパラリンピックは障がい者のみの大会だとは思わない。なぜなら、僕らは出場している選手にエールを送るだけでなく、選手の姿勢からもたくさんのエールをもらうことができるからだ。CMでもそうであったように、プレイをする選手はいきいきとして楽しんでいるように見える。誰一人暗い顔をしていないのだ。僕は、選手たちのこのプラス姿勢には、何かヒミツがあるのではないかと考えた。

シドニーパラリンピックメダリストで、車いす陸上長距離選手のグーン・ドリスコル選手はこう語っている。「人生の悪いこと

が全て障がいのせいに出来なくなってしまった。その瞬間、障がいは障がいじゃなくて私の特徴の一つになった。」彼女は、障がいを彼女自身の「個性」として捉えている。そして、この意識が選手から感じるプラス姿勢のヒミツなのだと思う。

しかし、彼女ら選手のプラスの姿勢をつくるのは僕たちだ。僕たちが、選手の持つ「個性」を尊重することで、選手の「個性」は輝き、それを見る僕たちに勇気やどこか選手たちに尊重されているような感覚を受ける。「パラリンピックは、みんなの個性が集まって生まれる大会である。」と僕は思う。「障がい」を「個性」として互いに尊重し、認め合う場。つまり、パラリンピックは、障がい者のための大会ではなく、みんなの「個性」の祭典なのである。そんな祭典を来年創って行く。そして、「障がい」表記を意識するなど小さなことから始めていきたい。みんなの小さな心がけが大きな変化につながる。五色の輪が交わるように、一つ一つが、一人一人が「個性」として輝けるようにしていきたいと思う。

第71回 全国人権・同和教育研究大会 一三重県津市一

「人権文化を確かなものに」～29市町の組織力と取組をさらに深めて～を地元テーマに、11月30日（土）・12月1日（日）三重県津市を会場に開催されました。この地元テーマには、「だれもが自分らしく生きることができる社会をめざして、全ての人が人として大切にされる価値観が根づく、そんな人権文化あふれる社会をつくりたい」という思いが込められています。

本大会には、地元特別報告をはじめ、全国から第1分科会「人権確立をめざす教育の創造」、第2分科会「自主活動」、第3分科会「進路・学力保障」、第4分科会「人権確立めざすまちづくり」と特別分科会に13本の実践報告が寄せられました。

丹波市からは、15人が参加しました。1万人以上の人人が全国から集まり、人権について考えるこの大会が継続している素晴らしさに感動し、すべての人が幸せに暮らせる社会の実現が近い将来にあることを願った2日間となりました。参加者の感想を紹介します。

参加者の感想

●「いつまで同和問題やつてんの？」という声が相変わらず聞こえてくる。そんな中、今回たくさんの当事者（出身者）から差別事象に向ける思いと、部落の人たちの姿を語る言葉に出会った。特に印象的なのは、発表された松村さんの家に他地区の子どもが遊びに来たとき、何度もお礼を言い、帰っていく姿が見えなくなってしまった見送っていた祖母の姿である。映像が見えた。

分科会では、被差別地区と知らずに転居してきた人がそのことを知ることによって新築した家屋を解体して去っていくという、差別が続いている現実も知ることができた。

結婚差別は現在もある。部落にかかるマイナスイメージ、偏見、忌避意識は解消されていない。出身者だけが当事者ではない。「国の責務であり国民的課題」と同対審答申に示されたように、国、地方行政、社会の一員としての自分自身もまた当事者であり関係者である。同和教育・人権教育に取り組む仲間づくりを進めていきたい。

●はじめて全国人権・同和教育研究大会に参加させていただき、大会規模の大きさに圧倒された。さらに分科会での会場の雰囲気や報告者から発せられる「熱（思い）」にも圧倒され、「すべての人々の命とくらしを守り、反差別の共生社会を創りあげるため」には、意識を持って自ら機会を求めることが必要であると再確認することができた。

特に2日目の特別部会では、現在のネット社会で起きている差別投稿にみられる「問題点や課題」。さらには「マジョリティとマイノリティ」の視点から、自身が持つ特権（ある社会集団に属していることで労なくして得ることのできる優位性）を認識し、マジョリティの立場から

関心（意識）を持ち成長（学ぶこと）していくかなければいけないと感じた。

「何もしないこと（分かっているから勉強をしないこと）は差別に加担することになる！」この言葉は、今回の研修で私の心に深く響くものになった。

今後も意識を持って、自己研鑽に努めていきたい。また、2日間参加の方々とご一緒にさせていただき人脈も拡げることができた。

●これまで様々な研修を行い、あらゆる差別的なことを理解し自分自身の考え方を持つようになったと思っていても、時として差別的な考えに陥る自分がいることを感じることがある。だからこそ、大切にしなければならないことは、学び続けるのももちろんのこと、自らを振り返り続けること。さらに継続的な努力が必要であると感じている。

特別部会の第3講座で講師をされた松村元樹さんが言われた、「若い先生が差別について知らないとよく言う。では、そのことに対して、差別を知ろうとするために何が努力（勉強）をしているのか？と尋ねると何もしていないと答える。」というのがあった。知ろうとしないのは「寝た子を起こすな」的な発想につながる。差別に加担することにもなる。知らないことに課題意識を持つことが大切であると感じた。



2019

丹(まごころ)の里人権のつどい

12月8日（日）春日文化ホールにおいて、6団体（丹波市、丹波市教育委員会、神戸地方法務局柏原支局、柏原人権擁護委員協議会、丹波市人権・同和教育協議会、人権啓発活動北阪神・丹波地域ネットワーク協議会）主催により、「2019年 丹(まごころ)の里人権のつどい」を開催しました。お互いに認め合いながら、人権についての正しい認識と理解を深め、人権意識の高揚と差別のない明るい社会の実現をめざしての開催となりました。

はじめに中学生人権作文表彰式・作文朗読があり、3人の中学生（柏原中3年宮本莉絵さん、和田中2年植山春奈さん、氷上中3年有田理沙子さん）が、学校生活や家庭生活の中で感じている人権についての熱い思いを発表しました。

次に、人権活動事例発表では、おやこあんさんぶるピノキオ（代表 義積美由紀さん）より、「ひとりひとりが輝くこと～音楽活動と仲間とのつながりを通して～」と題して、ステージ発表と活動報告がありました。ステージ発表では、『おどるポンポコリン』をベル奏で、『にじ』を手話歌で、その後全員で『U.S.A.』のダンスの披露がありました。



また、活動報告では、取組の内容や工夫点、活動の効果と期待等を分かりやすく説明していただきました。

人権講演会は、元「北京・ロンドン」パラリンピック水泳日本代表 伊藤真波さんから、「あきらめない心」というテーマでご講演いただきました。伊藤さんは、看護学校に通っていた20歳の時に交通事故に遭い右腕を失い、自暴自棄になっていた時に、車いすバスケット選手の転んでも転んでも起き上がる姿を見て、前向きに生きることを決意しました。日本で初めての義手の看護師になるという夢をかなえ、また、リハビ

リの一環として出合った水泳では、北京・ロンドンパラリンピックで日本代表として出場し入賞されました。

つらく苦しい体験をいかに乗り越えてきたのか、また、何事もあきらめずに取り組むことの大切さを熱く語っていただきました。最後に趣味でされているヴァイオリン演奏も心に響きました。



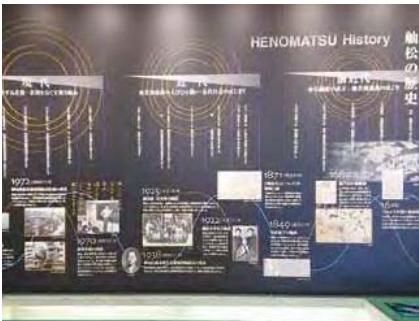
参加者の感想を紹介します

- 中学生の人権作文の朗読は、毎年感動しています。しっかりと自分の意見を持ち、発表する姿を見ると中学生が大人になったとき、きっと立派になり丹波市を担ってくれるのだろうと思いました。
- おやこあんさんぶるピノキオさんの演奏やダンスはとても良かったです。アンコールがしたかったです。終わった後、涙が出てきました。
- 伊藤真波さんの講演をお聴きして、「障害のあるなしに関わらず、人に支えられている」という言葉にハッキリさせられました。人はそれぞれにいろいろな悩みを抱えながら生きていることも、私自身、心に留めお互いに支え合って生きていきたいです。お話を聞いて本当に良かったです。ありがとうございました。
- 人権の課題はたくさんありますが、その課題を解決するのは人間です。人権の尊重を大切にしたいと思いました。良い「つどい」でした。

理事研修

11月8日
(金)、市同教

の理事研修として、堺市にある触松（へのまつ）人権歴史館に行ってきました。触松人権歴史館は、堺市の被差別部落の歴史を通じて「差別をなくそう」「自分は差別をしない」など部落問題を自分の問題として学習するための施設です。当日は、職員の方から約1時間お話を聞き、その後フィールドワークで、阪田三吉顕彰碑、願専寺、協和湯（跡）などを見学しました。



職員の方のお話は多くの貴重な資料をもとに、テーマ「えたと呼ばれた被差別民がいつ頃からいたのか」「どんな役負担をしていたのか」「死牛馬の処理や雪踏細工稼（せったいくいかせぎ）」がどのようなものであったか」「堺の町や周辺の村との関係はどうであったか」「かわたや非人について」「近世の身分制度について」など、丁寧に分かりやすく説明がありました。また、かつて「触松」と呼ばれたこの地は、泉野利喜蔵（いののりきぞう）らを中心とした触松水平社が差別からの解放を訴えた地であり、将棋名人の阪田三吉を生んだ地であることを紹介していただきました。

阪田三吉は子どもの頃、大人が指す縁台将棋を見よう見まねで覚え、12歳の頃には初段の腕前になっていました。没後の1955年10月、三吉は日本将棋連盟から名人位と王将位を追贈されました。また、1989年11月、堺が生んだ偉人

阪田三吉の功績をたたえ生家近くに顕彰碑が立てられました。

また、触松の人々は信仰心が厚く「来世では差別から解放されたい」という思いがあり、触松には古くからいくつかの寺がありました。本願寺からは正式な寺として認められていました。願専寺は、1738年（元文3）年、ようやく本願寺から木仏（本尊）と寺号を許可され正式な寺として認められました。



協和湯（跡）は、地域の人々にとって社交の場でした。夜遅くまで働く人のために営業時間を長くしていた時期もあり、地域内外の多くの人に親しまれていました。

「正しい知識を持つことが差別解消につながる」「差別は自然に無くなるものではない」とおっしゃっていた職員の方の言葉は、本協議会の施策に合致するものがあり、多くの学びがあった充実した1日となりました。

丹波新聞は下記の店舗で最新号を販売しております。

丹波市

- ファミリーマート柏原下小倉店
- 氷上パーキングエリア
- ひかみ四季菜館（大岡）
- 丹波医療センター内 売店

丹波篠山市

- ファミリーマート篠山丹南店（東吹）
- 岡本病院内 売店（東吹）
- セブンイレブン篠山黒岡店（黒岡）

丹波新聞
TEL.0795-72-0530 FAX.0795-72-1956

丹波新聞 検索

長年の知識と確かな技術と
自由な発想と一緒に
新しい業務スタイルを提案します。

防犯カメラ

防犯設計から施工まで
徹底サポート!
安心と安全のために

監視の手配や食事、観光施設の手配も行います

格安海外航空券・海外のホテルの手配・パパ活カード手配等

など幅広いご要望にお応えいたします

お問い合わせ

オフィス全体の
セキュリティ対策

情報漏洩
不正アクセス
なりすまし
データ改ざん等ブロック
迷惑メールブロック等

UTM(統合脅威管理プラグイン)
Unified Threat Management



株式会社 ユニットシステム

http://www.unitsystem.jp/
E-mail : info@unitsystem.jp

日本旅//世界の旅
予約
付中
あなたの旅を応援します!

団体旅行・グループ旅行・個人旅行などお気軽にご相談下さい

■JTB・近畿日本ツーリスト・日本旅行などの海外パック旅行（国内パック旅行の手配

空泊のみの手配や食事、観光施設の手配も行います

■ANA・JAL・ANA・JAL・JCB券・クレジットカード等の手配も行います

■格安海外航空券・海外のホテルの手配・パパ活カード手配等

など幅広いご要望にお応えいたします

お問い合わせ

関西旅行社

TEL (0795) 72-0325 FAX (0795) 72-2416

E-mail : info@kansairyoko.co.jp

5%還元

LION AIR
エースカジ
knc
日本旅行

編 集 後 記

2019年度に計画していた事業も予定通りやり遂げることが出来ました。本年度は、「子どもの権利条約」が国連総会において採決されてから30年、日本が「子どもの権利条約」を批准してから25年という節目の年でもあり、市同教の部会学習会で研修を深めました。今後は、丹波市に人権文化を定着させるため、今年度の課題をしっかり総括しつつ、教育及び啓発の実践を今後も続けていきたいと思います。